



図1 郷土資料室内に展示している「諸用日記 控」

鯨

いさな

第15号

昭島市郷土資料室
 〒196-0012
 昭島市つつじが丘
 3丁目3番15号
 アキシマエンス
 国際交流教養文化棟1階
 TEL:042-543-1523
 FAX:042-542-8002
 (昭島市民図書館共通)



えどじだい く
江戸時代の暮らしがわかる!?
 あきしま し ない のこ につき
昭島市内に残る日記!

昔の人たちは、どのような生活をしていたのか？それを調べる学問が三つあります。一つ目は、昔の人が住んでいた家(住居跡)の遺跡を発掘して調べる、考古学。二つ目は、昔の人が紙などに書いて残したものを調べる、歴史学。三つ目は、地域に住んでいる人たちに昔から現在までの暮らしについてお話を聞く、または、今では使われていない昔の道具を調べる、民俗学です。

特に最近の民俗学では、地域の人にお話を聞くだけではなく、昔の人が紙に書いて残した古い記録「古文書」などを使って調べる方法も行われるようになりました。

昭島市郷土資料室では、「諸用日記 控」という日記を展示しています(図1)。この日記を書いた人は、中野久次郎(中久大尽と呼ばれていた人物)です。中野家では、江戸時代(今から約二百年前)に、蚕の繭から作られた生糸の売買をしていました。その当時の中神村(今の中神町)での暮らしは、「諸用日記 控」に書かれています。

昔の「日記」には、日々の天気からはじまり、村の人たちとの交流、村の神社やお祭りに加えて、地震や洪水などの災害のことも多く書かれています。

昭島市では中野家だけでなく、指田家という上川原村(今の上川原町)で蚕を育て、糸をとる養蚕業や豚を育てる養豚業などを営んでいた家があり、江戸時代から大正時代(今から約二百年前から百年前)にかけて、上川原村での生活を数多く書き残した日記もあります。

指田家や中野家に残されていた日記などの古文書をくわしく調べていくことで、当時の人たちの暮らしがより具体的にわかっていきます。

昭島市郷土資料室では、アキシマクジラに代表される化石だけではなく、昭島市内に残された古文書や市内に住んでいた人たちが使っていた道具も調べています。

昭島市内の昔の人たちがどのように暮らしていたのか、「日記」から想像してみるのもおもしろいかも知れません。

令和六年度 十月～一月のおもな展示・イベント予定

◎企画展示 「写真展 青梅線130年 in 昭島」

展示期間：令和六年十月一日（火）～令和七年一月二十六日（日）
展示内容：青梅鉄道に関する写真を展示します。

★イベント 講演会 「青梅鉄道百三十年の現場」

開催日時：十月十九日（土）午後二時～三時三十分
内容：三村章氏（昭島市教育委員会近代史調査員）による
青梅鉄道を題材にした講演会です。

対象：どなたでも／定員：七十名（事前申込）

参加費：無料

会場：アキシマエンス国際交流教養文化棟二階 講習・研修室

★イベント 「文化財めぐり 旧中神村・旧築地村・旧宮沢村コース」

開催日時：十月二十六日（土）
内容：旧中神村・旧築地村・旧宮沢村地域の文化財を見学する
まち歩きイベントです。

対象：どなたでも／定員：二十名（事前申込）

参加費：百円

★マークのイベントは、参加に事前申し込みが必要です。

イベントの詳細は郷土資料室のスタッフにお問い合わせいただくか、
郷土資料室ホームページまたは館内の掲示をご確認ください。

※ 社会状況により展示・イベントが中止・変更となる場合がございます。

昭島市郷土資料室の展示やイベントの最新情報は、アキシマエンスのホームページ
(<https://www.akishimaensis.jp/guide/heritage/list.html>) または
アキシマエンス公式X (@akishima_ensis) へ見るのができます。

ホームページはこちら



Xはこちら



利用案内

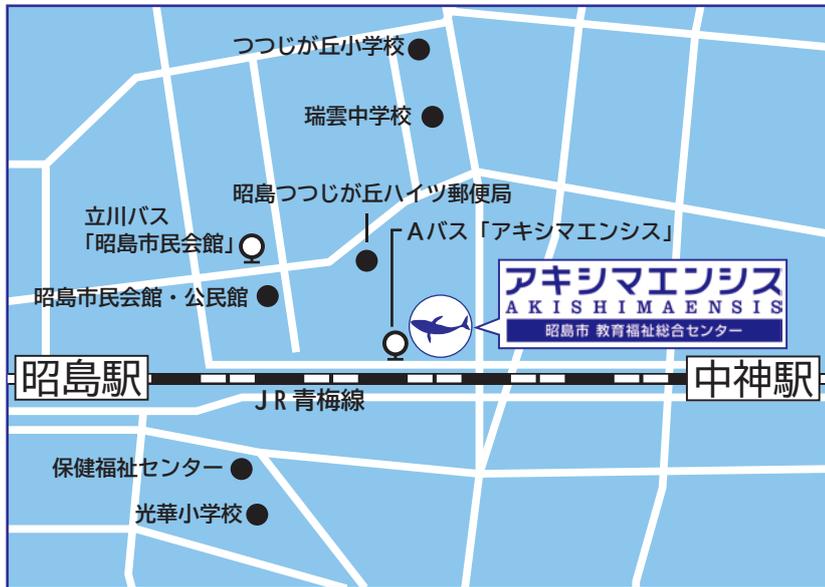
○開室時間

昭島市郷土資料室
火曜日～金曜日 午前十時～午後八時
土・日・祝日 午前十時～午後六時

○休室日

月曜日（休日の場合は翌平日）、年末年始、特別整理期間

郷土資料展示室 火曜日～日曜日・祝日 午前十時～午後五時
（見学を希望される方は郷土資料室のスタッフにお声がけください）



○交通アクセス・アクセスマップ

JR青梅線 昭島駅・中神駅より徒歩 10分

立川バス（昭22、昭23、昭23-2・昭24、昭26、拝13）
「昭島市民会館」下車徒歩 5分

Aバス（北ルート）「アキシマエンス」下車すぐ